興照寺報

平成28年3月
59号

発行　浄土真宗　興　照　寺
〒890-0045　鹿児島市武一丁目25番12号
電話099-254-3269 (代)FAX099-254-0303

一面　桜を想う
二面　鬼は内〈私の中に鬼がいる〉
三面　秋季永代経のお話
　　報恩講のお話
四面　諸案内・門徒会費のお願いなど

吹上町田尻の桜（伊豆の踊り子）

桜を想う

この桜は伊豆の踊子という品種で、一月の終わり頃から咲はじめ二月いっぱい楽しめます。桜と言えば親鸞聖人の得度の時の「明日ありと思う心の仇桜　夜半に嵐の吹かぬものかは」と、思い出しますが、私はなぜか、桜と言えば忠臣蔵の満開の桜の木の下で佇み、浅野内匠頭と最後の別れを待つ片岡源五右衛門の悲壮な姿を思い浮かべてしまいます。人それぞれでしょうが、これから咲く、梅、桃、木蓮、こぶし、などよりもどうも日本人は桜が好きなようです。

不思議な気もしますが、そこには日本人の想いが隠されている気がします。ある老齢な歌人が毎年吉野で桜の歌を詠まれていて、ある年［あと何回この桜を見られるかしら?］と呟かれたそうです。あと何年生きられるかしらと言うことなのでしょう。（散る桜　残る桜も散る桜）と、言いますが、確かに私たちは桜を見る時に〝世の無常〟を感じているのではないのでしょうか、咲き誇る桜に、はらはらと散りゆく桜に、〝世の無常〟と言う想いを重ねて桜を見、桜を想っているのが、日本人の心なんだと思います。

鬼は内〈私の中に鬼がいる〉

現在、孫が二人います。美和（みわ）という名前の六歳の女の子と大和（やまと）という三歳の男の子です。美和は、童謡の「さっちゃん」のように自分のことをまだ「みーちゃん」と呼んでいます。その美和が、先日何気なく私に話しかけてきました。

「おじいちゃんの外に出したい鬼は何？」

私は一瞬、意味がわからず、

「どういうこと？」

と聞き返しました。すると

「おじいちゃんの中で、イヤな所、無くしたい所は何ですかってこと！」

と説明してくれました。

幼稚園かテレビで「節分」の話を聞いたんだなと察しがつきましたが、鬼の正体について、この子は何を想像しているのだろう？と探りを入れながら逆に質問してみました。（以下、爺と孫の会話）

爺「みーちゃんの外に出したい鬼は何？」

孫「むずかしいんだけどねえ・・・、それは、大和とけんかしてしまう鬼なの」

爺「おじいちゃんは、みーちゃんと大和は仲良し姉弟だと思ってるよ」

孫「いつもは仲良しなんだけど、たまにけんかしてしまうの」

爺「それはどんな時？」

孫「おもちゃやお菓子の取り合いっこになった時。大和に取られたくないし、自分のものにしたいと思ってしまうの」

爺「・・・」

孫「おじいちゃんやおばあちゃんがいつも言ってるでしょう『みんなで仲良く遊べば楽しいし、みんなで分け合って食べれば美味しい』って。それは分かっているの。分かっているけど、でも出来ないみーちゃんがいるの。仲良く遊びたいみーちゃんと、けんかしてしまうみーちゃんがいるの。そのけんかしてしまうみーちゃんを外に出したいの。」

びっくりしました。

六歳の子からこんな懺悔（ざんげ）の言葉を聞くとは思っていませんでした。自己を観察した正直な告白に胸が熱くなりました。

爺「へえー、みーちゃん偉いね。ちゃんと自分のことがわかっているんだね。けんかする鬼を追い出すのはむずかしいけど、いけないということがわかっているだけでも偉いと思うよ」

孫の成長を実感した会話でした。

豆まきのかけ声と言えば、「鬼は外、福は内」を真っ先に思い浮かべますが、それだけではなく「鬼は内、福は外」というかけ声もあるそうです。「やっかいなことは自分が引き受ける。幸せは、どうぞ他の人のところへ」という意味があるとのことです。また「鬼は内」を「私のこころの中にあるくせ者をしっかり見つめましょう」と解釈することもあるようです。「私の中に鬼がいる」これはまさに浄土真宗の基本です。

仏教が教える四苦八苦のうちの一つに「怨憎会苦（おんぞうえく）」という苦しみがあります。意味は文字通り「怨（うら）めしい人、憎（にく）い人と会わなければならない苦しみ」と言うことです。多くの場合、人を憎んでしまうのは相手が悪いからだと思いがちですが、お釈迦様はこの苦しみが生じる原因は、私の自己中心的な煩悩にあると教えられます。つまり、憎い人がいると思って相手のせいにする前に、この私のこころの中に「憎いと思うこころがある」と自省しなさいとの教えです。「鬼は内」という言葉に通じます。

私たちは多くの煩悩（鬼）を抱えて生きています。捨て去ることはできませんが、この多くの煩悩を抱えた私が、そのまま救われていく教えが、浄土真宗のみ教えです。

〝私の中にイヤな鬼がいる。その鬼を退治したいけどできない〟そんなもどかしさを正直に話してくれた孫から、改めて大きな示唆を与えられたような気がしています。

秋季永代経法要

講師　田中　唯信　先生

お正信偈の一節に次のようにあります。

極重悪人唯称仏　我亦在彼摂取中
煩悩障眼雖不見　大悲無倦常照我

極重の悪人とは一体どんな悪人でしょうか。私たちは「私は悪いことはしていない善人です」と思ってしまいがちですが、命をいただきながらしか生きていけない私です。ちょっとした事にすぐ腹を立て、思う通りに行けばもっともっとと欲を広げ深くしていくこの私です。生まれてこの方自分を仏にするのに役立つようなことをただの一度もできたことがない、それが私の在り様です。この自分中心の物の見方しかできない我儘な私こそ極重の悪人だったと自分の本当の姿に気付かされた姿が「極重の悪人」であり如来さまの救いの目当てなのです。そして、このような私こそを目当てとして救ってくださる如来さまに、ようこそようこそありがとう、と口にするのが報恩感謝のお念仏なのです。

如来さまのいったん抱きとったら捨てはせぬぞの摂取不捨のお誓いある故に、この私は安心して生きていけます。しかしその摂取の光明の中に身を置かせていただいておりながら、私はこの摂取の光明を見る事が出来ません。煩悩があるから見ることができないのです。

では真実が見えないこの目でもって、どうやって真実に逢う事が出来るのでしょうか。目で見ることは出来ないけれども、耳で聞いて逢うことができます（聞見一致）。耳で聞いて仏さまのお慈悲に出逢わせていただくことはできるのです。

如来さまはいつでもどこでもその光明で照らし続けてくださっています。どういう形で届いてくださっているのか。それは南無阿弥陀仏という声の仏さまになってこの私の耳を通して私の心に届いて下さっているのです。（要旨）

報恩講法要

講師　福高　英昭　先生

阿弥陀様のお姿にも宇治の平等院のように座ったお姿もありますが、浄土真宗のご本尊の阿弥陀様は立っていらっしゃいます。立っていらっしゃるということは、静に対する動、活動中ということです。私たちに向こうから働きかけてくださっているのです、願いをかけて下さっているのです。わたしたちは〝おねがいしますよ〟〝たのみますよ〟〝良い事がありますように〟などと勝手な願いをしていませんか。しかし、私たちが願う以前に阿弥陀様から願われているのです。ですから、われわれは「南無阿弥陀仏」〝ありがとうございます〟〝ようこそでございます〟〝おかげさまでございます〟と礼拝するのです。それでは阿弥陀様が立たれてまで願われたものとは何でしょうか。本来的に明日をも知れない存在のわれわれに対し、〝安心しなさい、そのまま救うから〟〝私の名を呼びなさい、その命には何の不安もありませんよ、必ず極楽に迎え摂ってあげますよ〟と迫り続けてくださっているのです。阿弥陀様は四十八の願いをおこされました。「南無阿弥陀仏」はその願いが成就されてできた救いのお働きです。「大悲の船」と言うようにみんなを乗せて心配無く目的地に届ける船にもたとえられます。四十八願はその船の材料と言ってもいいかもしれません。どのような願いかと言えば〝こんな仏になって〟〝こんな国をつくって〟〝そこへ一切衆生を迎え摂りたい〟というものです。そのなかで〝こんな仏になりたい〟という願は「光明無量」「寿命無量」「諸仏称名」の三つの願いだけです。〝どこでも〟〝いつでも〟ともにある〝最高の親でありたいという阿弥陀さまの願いです。親鸞上人が「五劫思惟の願をよくよく案ずれば親鸞一人がためなり」といわれるように阿弥陀様の願いはご自身のためというよりそのまま私たちのためのものなのです。阿弥陀様はこの私のために立ち上がり、共にあってくださるのです。

春季彼岸法要のご案内

（○の日時にあります）

三月	午前十時より	午後二時より
十七日(木)	○	○
十八日(金)	○	吹上
十九日(土)	吹上	
二十日(日)お中日	○	○

・講師　丸山　英人先生（福岡県）

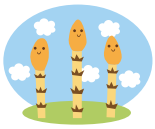
春季永代経法要のご案内

・期日　四月二十三日（土）
　四月二十四日（日）
・時間　朝席　十時より
　昼席　二時より
・講師　原田　英道先生（福岡県）

※永代経志納を希望される方は、四月十五日までに寺へご相談ください。

〈永代経志納のお勤めは二十四日（日）の昼席に行います〉

※どなたでも聴聞できます。気軽にご参加ください。



門徒会費のお願い

平成二十八年度の門徒会費納入をお願いいたします。

〈年額　二千円〉

■納入方法

①同封の振込用紙を使い、近くの郵便局から振り込む。

②寺へ持参される。

③命日などで、ご自宅へお参りに伺った際に預けていただく。（手数料は不要です）

■納付期限

五月末までにお願いします。

「門徒会費」は、興照寺門徒としての自覚を持っていただくとともに、寺の運営活動の一助とする事を目的としています。また、会費納入者の名簿を基に年回忌法要等の案内も行っています。

彼岸に寺で納金される際は（彼岸中は寺の受付が混雑する場合があります）、懇志と区別して、「門徒会費です」と明示してください。また、領収の半券を忘れずにお受け取りください。

花祭り

・日　四月三日（日）
・時間　十一時より
・場所　興照寺本堂

（和順会総会も合わせて行います）

✽花祭り関係諸募集✽

■帰敬式参加者

《帰敬式とは法名を受ける式です。法名は本来生前に受けるものです。当寺では、毎年一回、花祭りの際に行っています。是非この機会にお受けください。》

■余興参加者

踊り・カラオケ・詩吟・楽器演奏等の参加者を募集します。ふるってご参加ください。

【帰敬式を受けたい方、余興参加希望の方は、三月二十七日（日）までにご連絡ください。】

諸会会員を募集しています

■親厚会（男性の会）
毎月十七日十八時より

■婦人会
毎月十二日十二時より

■和順会
どなたでもお入りいただけます。四月の第一日曜日に花祭りを兼ねた総会を開いています。

いずれの会もいつでも入れます。寺の維持活動の一助ともなります。多くの方の参加をお待ちしています。詳しくは寺へお問い合わせ下さい。

お盆参りについてお願い

お盆のお参りについて、門徒会費の振込用紙を利用して皆様のご希望をお伺いいたします。

（詳しくは同封別紙をお読みください。）

納骨堂募集

古い納骨壇にも空きが出ました。
ご希望の方が居られましたらご連絡ください。

納骨堂管理費のお願い

納骨壇をお持ちの方につきましては、管理費の納入をお願いいたします。

金　額　年額　一万円

同封振込用紙に門徒会費・管理費の合計の金額が記入されていますので、門徒会費の納入方法と同じ要領でお願いいたします。

あとがき

春は、出会いの季節でもあります。出会いは偶然ではなく必然です。ご縁です。邂逅（出会い）によって人生は創られていきます。邂逅に感謝できる人生でありたいものです。